とうきょう
すくわくプログラム

2歳児クラス

～色～

絵本【いろいろばあシリーズ】を読む中で、それぞれ好きな色を見つけたり、色の変化に興味を見せたりする姿や声があったので、【色】をテーマに様々な活動を行い、その中での“不思議”や“わくわく”を引き出していきたいと思いました。

≪１回目≫　８月２５日（月）・９月１日（月）

活動

・ボディーペイントで絵の具遊びを楽しもう

準備物

・模造紙　・絵の具　・お皿

・筆　・ローラー　・スポンジ

朝の集まりで、“今日は手や足にも絵の具をつけて遊んでみるよ”と伝えると、「え？」と驚いた表情を見せていた子ども達。「あかがいい」「あおにする～」等、好きな色を決めては、お皿に入った絵の具に触れたり、道具を使って手に絵の具をつけたりしていました。中には、戸惑った表情を見せる子もいましたが、保育士が手足に絵の具を付けて模造紙に色をつけているのを目にすると、真似してそっと絵の具に触れていました。

はじめは単色で塗っていた子ども達ですが、色が重なると色が変化していくことに気付くと、「ここは、ぴんくになったよ」「なんで？」とさらに色を混ぜ合わせたり、色から食べ物を連想したりしていました。

≪２回目≫　９月１０日（水）

活動

・色水遊びを楽しもう

準備物

・ポリタンク　・コンテナ　・水

・食紅　・タライ　・テーブル　・透明容器

　ポリタンクの水の中に食紅（赤・青・黄）を入れて色水を作り、色水遊びを行いました。水が色付いていく様子を目にしては、「うわ～きれい」と感嘆の声をあげていた子ども達。透明の容器に好きな色の水を入れ、「ジュースですよ」「〇〇あじです」等と色から味を連想した言葉も聞こえてきました。

　持っていた容器に２色の水を入れていた子が、「みてみて」と周りにいた保育士等や子ども達に色が変わった水を見せながら声を掛けていました。その声を聞いた周りの子は「なにいろと、なにいろにしたの？」と興味津々な様子。それぞれが色作りに夢中な中、同じ色を使っても量によって色が違うことに気付いて、「ちょっとちがうね～」とお友達の色と見比べている姿もありました。

≪３回目≫　９月

活動

・作った色水を光に当ててみよう

準備物

・水　・食紅　・タライ　・透明容器

　この日の色水遊びは敢えて日の光が入る２階のテラスで行いました。透明容器に入った色水を、日の光が当たるところに置いておくと、地面に色がついていることに気付いた子ども達。「なんで？」「あおくなってるよ」「きれいだね」とじっと眺めたり、自分の持っている容器を横に並べて置いたり、容器を持ち上げ光にかざしてみたり、色々なことを試していました。

≪４回目≫　９月

活動

・色水を使って製作をしてみよう

準備物

・水　・絵の具　・紙コップ　・透明容器

・キッチンペーパー　・筆

連日色水遊びが盛り上がっているので、この日は色水を使って製作を行いました。今回作ったのは【かき氷】。紙コップの中にキッチンペーパーを入れ、色水で色付けをしました。「いちごあじだから、あかにする」「このいろもつかってみる」等、一人一人好きな色や味を思い浮かべながら、色付けをしていた子ども達。キッチンペーパーに色水がにじんでいく様子をじっと見たり、違う色を重ねて色の変化を眺めたりしている子もいました。

一つ出来上がると「もういっこやってもいい？」と自分達で新しいものを準備し、再びかき氷作り。沢山のかき氷が出来上がると、「いらっしゃいませ～」とかき氷屋さんがオープンしていました。

≪５回目≫　１０月２７日（月）

活動

・自然物を使って色水を作ってみよう

準備物

・ヨウシュヤマゴボウの実　・水

・バケツ　・シャベル

色への関心はまだまだ続き、この日は園庭にある【ヨウシュヤマゴボウの実】を使って子ども達が色水作りを行っていました。透明のバケツに水とヨウシュヤマゴボウを入れ、シャベルを使って潰してみると、実が割れ水の色がどんどんと変わっていきます。ピンクに色付いた水に「きれい～」と話したり、「みてみて～」とお友達に見せにいったりしていた子ども達。「こっちのほうが、こいぴんく」「こっちはうすいよ」と色の濃さに気付いたり、まだ熟していない実を潰した子が、「こっちは、いろがかわらない」と話したりと、同じ実でも量や物によっての違いがあることを発見している子もいました。

≪振り返り≫

夏の遊びの中で【色】をテーマに様々な活動を行ってきましたが、“こうしてみたら、どうなるんだろう”“これもおもしろそう”等と子ども達が楽しみながら意欲的に活動に参加をしている様子は表情からも感じられ、ワクワクの芽がどんどんと伸びていることを感じました。

子ども達の探求心が広がるには、保育士等も子どもの目線に立ちながら一緒に感じ考えること。さらには、≪次はどのような環境や仕掛けを用意したら子ども達の新たな発見に繋がるのかのアンテナを持ち、次の活動に繋げること≫が大切だと改めて実感をしました。

今後も、子ども達のワクワク・ドキドキの芽を大切に、子ども達の探求心を広げられるような保育を大切にしていきたいと思います。